



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

第15号

NPO 特定非営利活動法人  
日本雲南聯誼協会事務局  
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-1-1  
JR 東急目黒ビル 7F

TEL(03)5435-5977, FAX(03)5435-5978

http://www.jyfa.org

編集・発行人 初鹿野恵蘭

印刷協力 日経印刷 技術評論社

2004年12月20日発行

丙

中

洛

## ★青那桶小基本データ

民族:怒(ヌー)族、  
独竜(トールン)族、  
蔵(チベット)族  
児童数:65人 4クラス  
教員数:4人

1980年に開校。校舎が  
老朽化しており、当協会の  
支援の下新校舎を建設  
中。丙中洛は貢山県中心  
部より山道を車で1時間の  
場所にある。



独竜(トールン)族・怒(ヌー)族・蔵(チベット)族の子供たち  
協会からの文具を手にして元気いっぱい 後方は建設中の新校舎

第6校目小学校建設開始

2004年11月11日～23日、初鹿野理事長はじめ関係者4名が、小学校視察のため、雲南省へ赴きました。今回訪問したのは、怒江リソ族自治州です。怒江州は雲南省の西北部に位置し、西をミャンマー、北をチベット自治区と接する地域です。当協会支援により、現在新校舎建設中の、第6校目小学校のある青那桶村。青那桶村は、貢山県の中心部から50km離れたところに位置し、怒江からチベットへ抜ける際の玄関口になっています。ここに住むのは、独竜(トールン)族、怒(ヌー)族、蔵(チベット)族等の少数民族で総人口は5726人。そのうち、農業人口は100%、少数民族は全人口97.8%。人々の平均年収は883人民元(約100USD)。新校舎の建設は順調で、来年の4月には完成予定です。完成を待ちわびる子供たちの、元気な姿をご覧ください。

当協会からノートと鉛筆、鉛筆削りを、また、同行しました谷川さんからは鉛筆、片岡顧問からバスケットボールと縄跳びのプレゼントがそれぞれ手渡されました。



中間テストのこの時期、いつも以上に勉強に力が入ります



文具を一人ひとりに配る初鹿野理事長(左)



# 丙中洛青那桶小

到着予定時間より遅れた一行を、子供たちは校庭でずっと待っていてくれました。校長をはじめとする先生方も笑顔で私たちを迎えてくれました。ここは、現在協会支援で建設の始まった第6校目の小学校、丙中洛青那桶小学校です。



現在建設中の新校舎 2階建てです

僕たち、1年生から4年生までの子供が青那桶小学校で勉強しています



新校舎完成の4月にはぜひ会いに来て下さい!!



今回の視察で訪問した第6校目青那桶小、第4校目藤誼小、今後の候補地巴坡小の3校児童の、当協会から文具とお菓子をプレゼントしました。

色鉛筆 6箱  
お絵かき帳 200冊  
鉛筆削り 6個 お菓子



2004年11月16日、当協会支援としての第6・7校目小学校建設費支援金の贈呈式が怒江州六庫にて行われました。







校舎の前で ボール、鉛筆、ノート、飴玉のプレゼントを抱えて

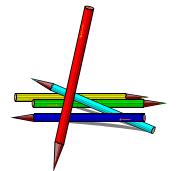


外国のお客さんだ！

教室に電気は無く、床は地面の岩がそのまま飛び出たごつごつの床

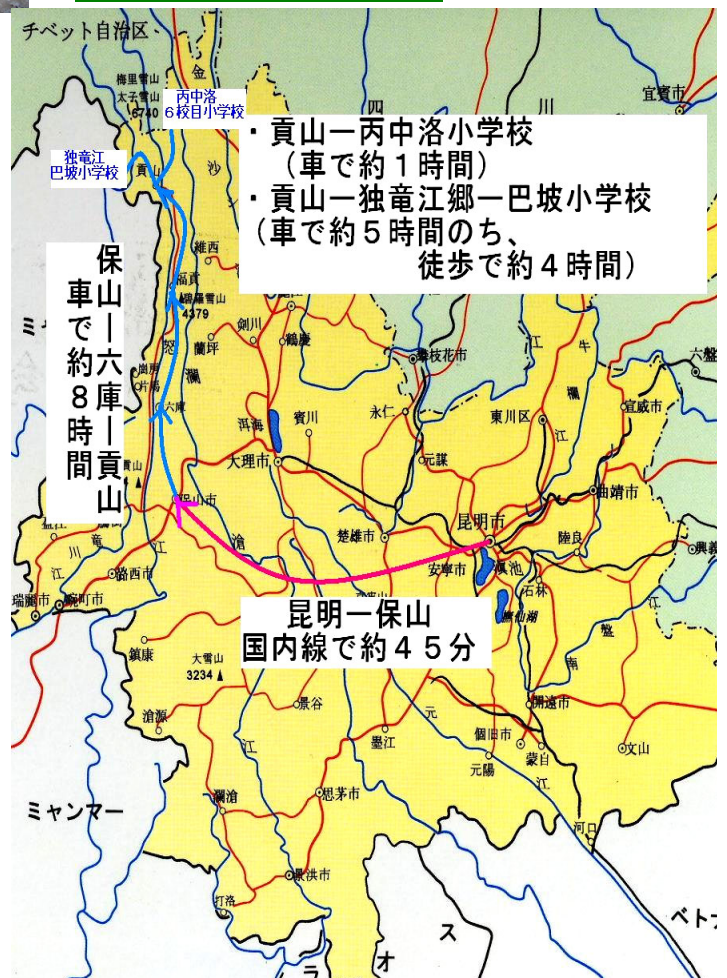


家のお手伝いで荷物を背負い、山道を何時間も歩く6年生の独竜族の男子



日本のみなさん、ありがとう！  
文具やお菓子を全員に配ります。

独竜(トールン)族は、中国に5000人程しか存在せず、最も人口の少ない少数民族です。彼らの生活する地域は、独竜江という、怒江州の中でも最西北の、高黎貢山に遮られ、隔離されたかのような場所です。1年のうち半年間は雪で道が閉ざされ、外部と行き来できなくなります。今回、初鹿野理事長一行は、今後の建設候補地である独竜江巴坡小学校を訪問しました。巴坡小学校は、就学適齢児童数に対して学校のあらゆる設備が足りていない現状があります。



今回の視察ルート (雲南省地図)

## 秘境の地独竜江 小学校視察



# 独竜江への道のり

巴坡小学校の子供たちに会いに...



2年前に完成したばかりの独竜江公路。これから最高高度3200mの山道を5時間走ります。

車が前を通ると必ずぴしっと敬礼をする下校中の子供  
独竜公路の途中にて



道路の修復工事をしているところ。つくっては崩れてしまう岩だらけの道を手作業で均します



独竜公路の3200m地点付近ではすでに雪が15 cmほど積もっていました。我々の帰った次の日から半年間(来年4月まで)、独竜公路は閉鎖されたそう。



河をロープで渡ることは彼らの生活の一部

巴坡小学校付近の民家で、6年生の女の子が幼い弟の面倒をみているところ



今回、初めて視察に同行した片岡巖顧問からは、「北京・上海も中国、そして雲南省も同じ中国。こんなに厳しい環境の中にも少数民族が住んでいることに対して、とても表現できない気持ちになります。」との感想をいただいています。

今回、初鹿野理事長一行は、地元の中国人でもなかなか入ることのできない独竜江地域の小学校視察に入りました。道のりは決して楽なものではなく、丙中洛のある貢山県より、岩だらけの山道を車で5時間走り、その後、車の通れない険しい岩道を両足で片道5時間歩き、小学校にたどり着きました。初鹿野理事長の活動の基本は、最も必要とされているところに小学校を建設すること。これまでも今回のような困難な道のりを幾度となく通ってきました。当協会に賛同してくださっている会員や協力者の皆様への責任を胸に、初鹿野理事長を中心として、当協会は今後も誠実に活動をしていきたいと思っています。



# 第3回経営工学セミナー@昆明理工大学

2004. 9. 10～9. 18



**日本** 中国国交正常化30周年の日本年・中国年の正式記念行事として、3年間のプロジェクトではじまった経営工学セミナーですが、今回で、最終年の3年目を迎えました。このプロジェクトは、当協会の唐沢英安理事、村松健児監事、佃純誠監事という3名の大学教授を中心に当協会と協力しながら進めてまいりました。

第3回となる今回は、雲南省昆明理工大学にて 1 週間のセミナーを開催しました。

**講義** は、英語と日本語で行われ、理工大学の学生たちも、遠く日本からの教授陣の貴重な講義を聞き逃すまいと、1週間真剣な姿勢で挑みました。

最終日には、中国の学生数名によるプレゼンテーションが行われました。先生方の一週間の熱の入った講義にできるように、彼らもまた一週間のセミナーの成果を十分に発揮してくれました。

**今回** 雲南省に赴いた5名の先生方、ならびに昆明事務所の林さん、馬主任、昆明理工大学の諸先生と学生の皆さん、お疲れ様でした。そして3年間継続して取り組んでくださった先生方に改めて感謝いたします。



出発前、関西国際空港にて

左から) 小林稔先生(東海大学)、唐澤英安先生(当協会理事)、村松健児教授(当協会監事・東海大学)、助手の芹沢卓也さん、助手の唐澤英長さん

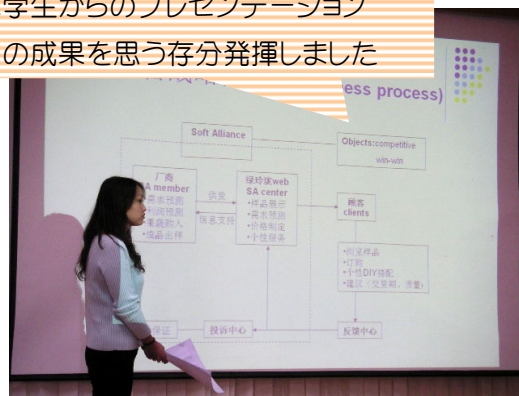
**出発** 当日、天気はあいにくの台風のため、関西空港で一泊を余儀なくされるというアクシデントがありましたが、翌日、5名の先生方は無事に昆明に到着しました。

**この** 経営工学セミナーは、中国の学生がより実践的な知識を深め、次世代の社会作りにつながれば、という日本側の先生方の思いで今回も実現することができました。



講義を真剣に聞く学生たち 手前は唐澤先生

最終日は学生からのプレゼンテーション  
一週間の成果を思う存分発揮しました



## セミナー3年間の足跡

2002. 8. 7～18 第1回経営工学セミナー  
@昆明理工大

2003. 12. 26 第2回経営工学セミナー  
「日本中国産官学ソフトアライアンス」@東海大

2004. 9. 10～18 第3回経営工学セミナー  
@昆明理工大

日中両国の先生方、関係者の方々に感謝いたします。



村松先生の講義の様子







来場者に説明する近藤会員(右)

# 国際協力フェスティバルに初参加

(2004年10月2日・3日開催)

愛知県会員・近藤鋭一さん寄稿文

**初鹿野**理事長の行動力と熱意は、着実に実を結び、聯誼協会の認知度もそれに伴って上昇しています。協会ウェブサイトの充実度に至っては、有名美術館のそれより優っているとさえ思えます。さて、私は、そんな素晴らしいNPOに加わりながら、中央から遠い所に住んでいることもあってなかなか身を提供してのボランティア活動ができません。今回初めてそれが実現したので、大きな喜びを持って体験談を書き送ろうと思いました。

## ボランティア印象記

**当日。**天候は、猛暑ながらも好天。人出は、駅のラッシュアワー並みに多く、その9割方が若い人たちであるのには、大いに驚かされ、若い人たちも棄てたものではないとの感想をもちました。広い会場には、百を超えるテントが並んでいます。韓国留学生が中心となったカンボジア教育支援のグループと、1つテントを半々に使い、譲り合い、協力しあいのできたのもよい交流になりました。

当協会が用意したのは、募金箱、雲南民芸品や特産品、民族衣装のほか、活動紹介のパネル、会報などです。テントの中は狭く、私はもっぱら通路に立って呼び込みをしました。声を掛けるうち、中に入ってパネルを見、質問をくれる人もけっこういて、やり甲斐がありました。雲南に行ったことのある人は、反応も違ったものがあり、こちらもつい話しに熱が入りました。



協会のテント 会場は人で賑わいます

**二日目**の日曜日は、一転して大雨で、一日中降り通しました。したがって、人出は初日に比べ少なかったものの、足下の悪さにもかかわらず、大勢の人が行き交い、熱心に説明を聞いてくださる方が何人もいました。そういう中



協会ブースのボランティアの皆様と

に、中国からの留学生も混じっていました。

テントからは、所々雨滴がしたり、展示物が“水害”にあうということもあり、決して条件のいい日ではありませんでした。しかし、そんな中、初鹿野理事長が多忙な時間を割いて、会場に応援に駆けつけてくださったことや、協会に協力してくださっている方々が長野県など遠方から駆けつけてくださったことも、とても嬉しいことでした。根岸氏のカンボジア教育支援のグループには、当協会の物品運搬も快く引き受けていただいております、本当にありがたいことでした。小さなテント半分のブースでしたが、多くの人に支えられて無事終わることができ、感無量でした。

**私事**で恐縮ですが、長男が2日に渡って応援に来てくれたことも、とても嬉しかったことです。七田さん、大久保さん、張さん、いずれも若い人たちです。こういう善意にあふれた若い人たちの尊い姿を見ることができただけでも、今回の参加は素晴らしい体験でした。またこんな機会があれば、志願したいと思います。

近藤会員は、愛知県の小学校で教鞭をとっていらっしゃいます。雲南の子供に対する情熱は大変大きく、いつも暖かい支援をいただいています。今回遠く愛知県から、2日に渡ってボランティアをしていただきました、本当にありがとうございました。





**この度**、新潟中越地震に  
関しまして、日本・雲南聯誼協  
会として、僅かですが義捐金を送りましたのでご報告します。

当協会顧問で「NPO21 世紀のカンボジアを支援する会」の理事長を務めていらっしゃる根岸恒次さんが、新潟県小千谷市横渡に赴き、当協会義捐金を届けてくださいました。被災者を代表して、篠田様より写真とともにお礼状が届きました。横渡地域の復興のために義捐金が確実に役立ちましたことをここにご報告いたします。

あらためまして、この度の地震により被害を受けられた皆様には謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



(2004年11月13日)

# 新潟中越地震支援

## 華培外国語学校生徒来日



**雲南省、玉溪市の私立華培外国語学校の日本語学科生徒6名(中学1年生～高校1年生)が日本にやってきました。**



長野の子供たちとの交流  
中段の6名が雲南からの生徒たち

当協会会員で雲南省玉溪の私立華培外国語学校日本語学科の主任をしている那須英人さんの「日本語を勉強する子供たちに日本での体験や文化交流の機会を与えてやりたい」という希望と、同じく当協会会員の NPO クローバーコミュニケーション信州さんの「雲南省の子供たちの交流受け入れをぜひしたい」という希望を当協会が結ぶ形で今回の交流旅行が実現しました。8月6日には、生徒一行の東京見学の日程に、当協会から曹光顧問らが合流し、一日東京を巡りながら楽しく交流しました。

NPO クローバーコミュニケーション信州さんの全面的協力で、子供たちは長野県にて日本の子供たちとの交流や、お祭りへの参加、そば打ち体験、和太鼓の演奏などの日本文化を体験しました。受け入れに当たってはクローバーコミュニケーション信州様、本当にお疲れ様でした。皆様の心のこもった受け入れに改めて感謝いたします。

(2004年8月3日～10日)



# INFORMATION

2004年も、会員の皆様のご協力で事務局も活発に情報発信・交流をすることができました。当協会ではメール通信・会報を通じて頻繁に会員や協力者の皆様とのネットワークを繋いでおります。また、協会ウェブサイトには日々の活動が詳細に掲載してございます。まだご覧になったことのない方、ぜひ一度アクセスしてみてください。

<http://www.jyfa.org>

2004年(4月～12月) 皆様との交流の軌跡

(12月15日現在)

|            |      |
|------------|------|
| 会報発行       | 5回   |
| メール通信配信    | 18回  |
| 事務局ご来訪者数   | 175名 |
| 新規ご入会者     | 81名  |
| 初鹿野理事長雲南出張 | 5回   |

これからも、引き続き会員の皆様との密な関係を築けるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

謝



謝

七田誠様 JR貨物労組様 中村昭夫様 増井武彦様 田村英一様 地原久泰様 峰尾勝美様 洪里勝信様  
山田桜様 原田啓様 岡野一馬様 氏家孝様 JR東海労組様 杉谷隆志様 中谷耀子様 増山章様  
町田貞之様 富永巴様 登坂征一郎様 JR西労様 吉田しのぶ様 岡村姿織様 近藤鈿一様 谷川洋様  
田村豊様 北村貢様 松崎郁男様 澤田和子様 多摩国際センター様 山本和広様 下道国様  
喜多見洋様 喜多見規子様 岡田忠様 高橋雅彦様 水野邦彦様 麦島秀雄様 河野宏和様

協会募金箱 JR 総連様・JR 貨物労組様・JR 西労様・目黒さつき会館様 (募金箱の寄付金合計233,028円)

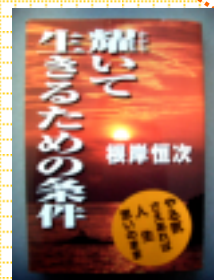
このほかにも、日々のボランティアなど事務局への支援、文房具を送っていただいたり、会員の皆様からの会費など、たくさんの方からの支えで今年も活動できましたことに、心より感謝申し上げます。

## 「輝いて生きるための条件」

(ハートフルライフ社刊、1300円)

21世紀のカンボジアを支援する会の理事長で、当協会の顧問でもある根岸恒次さんがこのたびご自身の体験や

思いをつづったエッセイを出版しました。根岸顧問は、当協会設立以来、いつも温かく協会を見守ってくださっています。このエッセイの中には、そんな根岸顧問の温かい人柄がそのまま表れており、また、当協会と初鹿野理事長についても書かれています。ぜひお手にとってご覧になってみてください。



根岸恒次顧問

お問い合わせは  
21世紀のカンボジアを  
支援する会事務局まで。  
Tel.03-3991-2854

## 2004年4月～12月 ご寄付をくださった方々

(順不同 12月15日現在)

石川淳二様 片岡巖様 加藤毅様 湯浅康司様  
奥田利隆様 小山功様 吉田晃様 真砂泉様  
近藤鈿一様 内田正子様 鴨谷節夫様 三島祥生様  
池田一恵様 前原多水恵様 北原茂実様 浦田峯子様  
三水箏様 初鹿野仁様 河村信弘様 佐波準之助様  
森本敞子様 歌川榮子様 松村和香様 恩田美智子様